

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①4学科の新教育課程を適切に進行管理するとともに、各学科策定の教育課程を円滑に推進する。</p> <p>①国際科・理数科を引き継ぐ普通科として外国語教育や理数教育を重視した教育を行うとともに、専門学科との融合による生徒の学力向上を図る。</p> <p>②外国につながる生徒の支援体制を充実させる。</p>	<p>①新教育課程の展開に向け、全学科において「協働的な学び」と「個別最適な学び」を充実させ、ICTの利活用等、新しい時代に必要な資質・能力の育成に向けた授業の最適化を図る。</p> <p>②STEAM教育研究推進校としての取組に基づき、探究活動の深化を図り、全学科の生徒の能力を伸ばさせる教育を推進する。</p> <p>③外国につながる生徒をはじめとした多様な生徒に対する組織的な支援の充実を図る。</p>	<p>①授業研究期間を設け、教科を越えて情報や課題を共有し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。また、1人1台端末やICTの効果的な利活用の方法を共有し、実践につなげる。</p> <p>②教科等横断的な学習プログラムの研究開発を行う。</p> <p>②専門学科の専門科目や普通科の「総合的な探究の時間」等を含めた教科・科目において探究的な学びを推進し、課題発見及び根拠を持って解決することを通して生徒の自己実現を目指す。</p> <p>②個別最適な学びと協働的な学びを実現する。</p> <p>③多文化共生教育推進チームを中心に、情報共有や研修を行うとともに、多文化教育コーディネーターとの連携・協力により放課後日本語教室等の必要な支援を企画・運営する。</p> <p>③CEMLAスクール主管校として、運営協議会参加各校と連携しながらスクールの活性化に努める。</p>	<p>①生徒による授業評価の項目2(対話的な学び)における「4かなり当てはまる」の回答率が40%以上となったか。</p> <p>②生徒による授業評価の項目3(深い学び)、項目6(項目3と関連の深い項目)、項目7(より高次な学びの構築)における肯定的な回答の割合が、前年度より向上したか。</p> <p>②英語の外部検定試験の合格による単位認定数を増やすことができたか。</p> <p>③各年次および学校全体での情報共有を前後期各2回以上実施することができたか。</p> <p>③多文化共生教育推進チームで業務分担し、多文化教育コーディネーターと協働して必要な支援を円滑かつ組織的に進めることができたか。</p> <p>③CEMLAスクール主管校として、CEMLAスクールの活性化に取り組むことができたか。</p>	<p>①2回目の調査で40%以上となった教科は公民、保健体育、芸術、外国語、理数だった。</p> <p>②単位認定の申請数は、前年度比1.2倍に増加した。</p> <p>②教科等横断的な授業を主題とした授業互見を授業改善の一環として実施した。また、同じ主題で公開研究授業を実施した。</p> <p>②総合的な探究の時間を含む様々な教科学習や特別活動等を通して、自らの課題や興味・関心に基づいて探究を行い、各種発表を行った。</p> <p>②生徒の健康面に配慮した効率の良い教育課程の推進に向けて、令和7年度行事精選に取り組んだ。</p> <p>③多くの教員がCEMLAスクール等の取組に関わるとともに、校内で年次ごとの情報交換会議を開催し、情報の共有ができた。</p> <p>③CEMLAスクール主管校として、CEMLAスクールの運営を積極的に行うことができた。</p> <p>CEMLAスクール41回・505人放課後学習教室25回・275人</p>	<p>①40%には達していないものの、多くの教科で1回目に比べ「4かなり当てはまる」の回答率が増加している。教科・科目間で事例を共有し、更なる授業改善を図る。</p> <p>②単位認定制度の周知を含め、英語外部検定試験の受検を推奨する。</p> <p>②STEAM教育における探究活動を主とした指導と評価の一体化に取り組む。</p> <p>②生徒の自己実現をめざし、主体的な課題設定のための下地づくりとなる学習活動の展開について検討する。</p> <p>③多様な生徒に対して、組織的な学習支援に取り組む。</p> <p>③CEMLAスクールに関して、効率的な運営をめざし組織的に取り組む。</p>	<p>①生徒による授業評価の結果について、生徒へのフィードバックを工夫して欲しい。また、1回目と2回目の結果の差異について、その要因を把握し、さらなる授業改善へ取り組んで欲しい。</p> <p>②STEAM教育研究推進校として、探究活動を主とした学習活動に取り組み、本校における持続的な教育活動として定着を図る。</p> <p>②英語外部検定試験の受検を推奨する。</p> <p>③CEMLAスクール主管校として、CEMLAスクールの運営を積極的に行い、CEMLAスクール41回・505人、放課後学習教室25回・275人が参加した。</p>	<p>①生徒による授業評価について、実施結果を生徒へフィードバックし、生徒の学習への取組について改善を図る。また、結果の分析を行うことにより授業改善につなげる。</p> <p>②STEAM教育研究推進校の指定最終年度として、本校における持続的な教育活動として位置付ける。</p> <p>②英語外部検定試験の大学における利用方法について検証し、周知を図ることにより、受検を推奨する。</p> <p>③外国につながる生徒をはじめ、多様な生徒に対する組織的な支援を継続する。</p>	
2 生徒指導・ 支援	<p>①特別活動や部活動の一層の活性化めざし、豊かな人間性と社会性の涵養を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりに対してきめ細やかな支援や指導により、心身の健全な育成をめざす。</p>	<p>①探究的な視点を持った「生徒を主語にした」活動の充実を支援し、豊かな人間性と社会性・規範意識を備えた生徒を育成する。</p> <p>②日常的な交通安全指導を含め、地域とともにある交通安全教育をさらに推進し、生徒の安心・安全な学校生活を支援する。</p> <p>②機動性の高い教育相談体制の充実を図り、事案の早期発見と早期対応を目指す。</p>	<p>①生徒が主体となった各行事づくりのために生徒実行委員会を充実させ、生徒自らが企画・運営できる体制を構築し支援をする。特に「SAGM Synergy」については学科間交流を深める行事としてさらに確立・発展させるとともに、検証にも努める。</p> <p>①普通科生徒も加入にした学科融合型の部活動として高加入率を維持し、生徒が主体となった活動により実績をあげる。</p> <p>②教育相談体制をさらに充実させる。</p> <p>②スケアードストレイト方式の交通安全教室の実施、相模原地区交通安全高校生PTA大会の幹事校としての活動を充実させる。</p>	<p>①生徒が主体となって探究的な視点を持った行事づくりの充実が図れたか。また、学科融合型の行事により、他者理解の精神を育み相乗効果として生徒一人ひとりの見方・考え方を広げられたか。</p> <p>①部活動加入率85%以上が維持できているか。また、生徒が主体となった活動の中で、各部の実績はあげられたか。部活動ドリーム大賞等は受賞できたか。</p> <p>②教育相談担当を中心に年次、担任、家庭、SC、SSW、ケース会議等を通して緊密な情報共有に努め、早期発見・早期対応を目標とした組織的な教育相談体制の充実を図れたか。</p> <p>②スケアードストレイト方式の交通安全教室や、相模原地区交通安全高校生PTA大会の幹事校としての活動を通して交通安全に関する啓発活動を充実することができたか。</p>	<p>①生徒が主体的に企画・運営する場面は増えたが、探究的な視点や学科融合型の相乗効果は進展の余地がある。</p> <p>①部活動加入率85%の維持はできたが、各部の実績については十分でなく、部活動ドリーム大賞は文化賞と各賞の受賞に留まった。</p> <p>②教育相談担当を中心に、各年次で組織的な支援体制が構築した。新規の情報共有シートに統一した。また、SC・SSWと連携してプッシュ型面談、ケース会議を開催し、サポートチームにより生徒の状況把握を図った。</p> <p>②交通安全教室、路上での交通指導を実施した。地区交通安全高校生PTA大会の委員長校として、大会運営や発表を行った。</p>	<p>①生徒が主体的に取り組む探究的な視点を持った行事づくりを継続し、「SAGM Synergy」の理念をWE FESに拡充し、内容の精選を図る。</p> <p>①部活動活性化のために加入率維持だけでなく、普通科生徒と専門学科生徒が融合した活発な活動を図る。またドリーム大賞グランプリ、各賞の受賞をめざす。</p> <p>②事故・問題行動等の発生の未然防止のため、積極的な生徒指導をめざす。</p> <p>②課題を抱える生徒に対し、より一層の早期発見・早期対応と予防的な手立て、綿密な情報交換や専門機関との連携による教育相談体制のさらなる充実を図る。</p>	<p>①部活動は、実りの多い教育活動だと認識している。休養日の件もあるが、引き続き取り組んで欲しい。</p> <p>②小学校の登校支援の際、マナーが良く、大変協力的な生徒を見かけるので、全体に情報として共有して欲しい。</p> <p>②交通安全指導については、近隣の学校とも連携を図りながら進める方法がある。</p>	<p>①生徒が主体的に取り組む探究的な視点を持った行事づくりを継続する。</p> <p>①部活動については、その取組により学習意欲の向上、責任感や連帯感の涵養に資するものである。引き続き部活動の活性化に取り組む。</p> <p>②登下校時の自転車乗車マナーの向上や交通事故防止については重点的に取り組む必要がある。</p>	<p>①「SAGM Synergy」の理念をWE FESに拡充し、内容の精選を促進する。</p> <p>①部活動が教育活動の一環であることを再確認し、学校全体として指導体制の確立を図るとともに、普通科生徒と専門学科生徒が融合した活発な活動をめざす。</p> <p>②本年度の地区交通安全高校生PTA大会の担当校としての成果を活用し、地域と連携した交通安全指導・教育を推進する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①各学科の特色ある教育を基に、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばし、国公立・難関私立大学への進学をめざす。 ②特に専門学科においては、専門課程にふさわしいキャリア教育により支援していく。	①高大接続改革に係る最新の進路情報を提供し、組織的できめ細かい指導を通して生徒の進路実現を図る。 ②長期休業等における補習・講習の質的・量的な充実をめぐる。 ③STEAM教育の視点を持った探究活動に取り組みとともに、キャリア・パスポートの活用を図る。	①「進路ガイドブック」「進路だより」及び各種説明会等を通じて、生徒、保護者への情報提供を行う。 ②長期休業等における補習・講習を充実させるべく各教科に呼びかける。 ③STEAM教育との関連で作成された本校でのキャリア・パスポート「やえいノート」の活用を進める。	①進路ガイドブック等へ令和7年度大学入試の情報を盛り込み、最新の情報提供を行うことができたか。 ②補習・講習の実施講座数と講座の内容が、生徒のニーズに合った充分なものとなったか。 ③「やえいノート」の活用が効果的なものとなり、生徒自身の学びを可視化することで生徒の1年次「自己発見」、2年次「自己探究」、3年次「自己実現」を図ることができたか。	①新しい入試制度に関する情報を進路ガイドブック、保護者対象進路説明会、生徒向け進路説明会、進路だより等で周知することができた。 ②補習・講習については、夏季講習では25講座と講座数を増加して開講し、生徒のニーズに合わせるように実施した。 ③「やえいノート」の活用については、頻繁に活用することができた。	①新しい入試制度に関する各大学の情報は把握に努めたが、今後、生徒の受験方法の変化が予想されるため、進路指導の柔軟な対応が必要となる。 ②講習講座数の増加は果たしたが、生徒のニーズにどこまで対応できたかの検証が必要である。 ③「やえいノート」の活用は進んでいるが、その効果の検証が必要である。	①生徒にとって行きたい大学へ行かせるような進路指導の定着を期待する。 ②受験方法の変化として早期に進路決定を図る動向に対し、進学後に必要な知識の確実な定着も重要と考える。	①生徒のニーズにそった進路実現のための支援の成果が表れてきている。生徒・保護者向けの進路情報提供についてはさらに充実させる。 ③「やえいノート」の活用に伴い、効果の検証が課題である。	①生徒や保護者に対し、最新の進路情報の提供等、きめ細かな支援を継続する。 ④基礎・基本の定着を図るための学び方を学ぶ機会をつくる。 ⑤英語外部検定試験の受検を推奨する。 ⑥補習・講習について、生徒のニーズを検証し、内容を工夫改善して補習・講習のより一層の充実を図る。 ⑦「やえいノート」にキャリア・パスポートとしての機能をもたせる。
4	地域等との協働	①地域の小・中学校・特別支援学校・大学や教育機関等とより一層の連携を図る。 ②地域との協働的活動を推進し、生徒全体の地域貢献意識の向上を図り、地域に愛され、信頼される学校づくりを行う。	①地域の教育力の活用を図り、地域の中で学ぶ生徒の自己有用感を育む。また、地域の学校等との連携を深め、開かれた学校づくりをさらに推進する。 ②本校の教育活動の周知のため、学校ホームページの充実を図り、本校の魅力と特色についてアピールする。また、学校行事等の中学生や保護者への情報発信など、広報活動の充実を図る。	①各部活動の近隣との連携を充実させるために、連携を強化し中学生が本校の教育活動に触れる機会を増やす。 ④地域の公民館や特別支援学校、美術大学等との連携を深め、地域に貢献する活動に取り組む。 ⑤本校の教育活動の周知を行い、本校の魅力と特色をアピールするためにホームページの充実を図り、迅速な記事作成をできるようにする。そのために、職員へのサポートと情報提供を行える体制を整える。 ⑥学校紹介の機会をとらえて積極的に広報活動を行う。	①部活動等を通して近隣の小・中学校との連携を深め、特に中学生の本校での教育活動の体験を実施することができたか。 ④地域の公民館や特別支援学校、美術大学等との連携により地域貢献活動に取り組み、生徒の自己有用感を醸成することができたか。 ⑤週単位でホームページの更新を行い、本校の魅力と特色を発信することができたか。 ⑥メディア等による学校紹介の機会をとらえ、学校広報活動を積極的に展開することができたか。	①部活動や弥栄トリニティなどを通じて近隣の小・中学校との連携を深め、本校の教育活動を体験する機会を作った。 ④地域の公民館などでの発表など、連携の機会を逃さず地域貢献活動に取り組む、生徒の自己有用感を高めた。 ⑤学校ホームページの更新頻度を高め、行事や部活動の情報をはじめとした本校の魅力と特色を積極的に発信した。 ⑥美術科などへのメディア取材により、学校広報活動を積極的に展開した。	①近隣の小学校・中学校との連携は活発に行えた。来年度も今年度の実績を踏まえ、より効果的に実施する。 ④地域の特別支援学校や公民館等での活動を引き続き実施する。 ⑤学校ホームページの更新頻度は上がったが、掲載内容の充実に向け、グループ内で分担して毎週更新を行うなど、さらなる情報発信に努める。 ⑥学校広報活動の機会を逃さず取材等を受けたが、より効果的な広報活動に向けて検証を行う。	①地域の公民館関係団体の活動やまちづくり会議に相模原弥栄高校生がボランティアとして関わることを期待している。 ②校外での行事の写真を掲載するなど、ホームページの掲載内容の充実による積極的な情報発信をお願いしたい。また、弥栄体操を地域に広めることを検討して欲しい。	①本校における地域連携の在り方について検討し、今後の地域連携及び開かれた学校づくりに取り組む。 ②ホームページの掲載内容の充実を図るとともに、更新頻度をさらに高め、地域や県民の方の求める情報発信に努める。	①地域連携活動に生徒の積極的な参加を促すとともに地域の教育力の活用についても検討する。 ②ホームページやメディアによる本校の魅力と特色の発信に努める。
5	学校管理 学校運営	①緊急時に対応できる防災教育・安全教育を学校全体で推進する。 ②効率的な業務の整備により事故・不祥事防止を図る。 ③長時間勤務を是正したワーク・ライフ・バランスの実現を通して教職員自らの人間性や創造性を高め、資質向上に努める。	①防災の観点から施設・設備の整備を図るとともに校内美化を推進する。また、本校周辺の防災上の特徴をとらえ、実践的な防災対策を進める。 ②不祥事ゼロプログラムに基づいた不祥事防止研修を実施するとともに協働意識の醸成を図り、事故の未然防止に努める。 ③教職員の働き方改革をさらに推進し、組織的な学校運営と校務の効率化を更に進め、長時間勤務を是正する。	①グループ間の連携により、危機管理マニュアルを本校の実情に即して改訂する。 ④災害時に実効性のある避難ができるよう防災訓練の方法を検討する。 ⑤老朽物品の更新および不要物品の廃棄を行い、校内の美化を徹底する。 ⑥計画的な研修を実施し、不祥事防止会議を活用して成績処理等における不祥事の防止を徹底する。また、帰属意識を高めるよう同僚性のある風通しの良い職場づくりに取り組む。 ⑦タイムマネジメントの視点と目指すべき教職員像の観点から教職員の働き方改革を推進する。	①危機管理マニュアルを改訂するとともに、職員への周知を図ることができたか。 ④生徒及び教職員の防災や安全に対する意識を高める防災訓練を計画・実施することができたか。 ⑤規定の手続きに従って確実に不要物品の廃棄を行い、校内美化を徹底することができたか。 ⑥校内の教育環境整備として無線LANアクセスポイントを整備することができたか。 ⑦より効果の高い職員研修を実施し、不祥事の未然防止に取り組むことができたか。 ⑧教職員の働き方改革をさらに推進し、長時間労働者の割合が前年度と比較して減少させることができたか。	①危機管理マニュアルを改訂し、職員に早期に配付することができた。 ④生徒対象防災訓練を2回実施し、シェイクアウト訓練や避難経路の確認を実地で行うことができた。職員対象の防災訓練では、非常時に使用する機器の操作方法などの実践的な訓練ができた。また、防災倉庫を整理し、非常時に速やかに対応できるようにした。 ⑤老朽物品の更新を機に、校内の不要物品を規定に則って廃棄し、校内美化を進めることができたか。 ⑥校内の教育環境整備のため、無線LANアクセスポイントの適正配置と増設を行った。 ⑦職員会議や不祥事防止会議、朝の打合せなどにおいて啓発資料等を用いた職員研修を定期的に行い、教職員の意識の向上を図った。 ⑧業務精選により、前年度と比較して「月平均時間外在校等時間」が減少した。	①実際の災害発生を想定し、HR教室以外で被災した際の行動についての訓練を計画する。 ④令和6年度から順次、非常食が賞味期限を迎えるため、計画的な購入を行う。 ⑤各所と連携して校内の不要物品の廃棄や物品の更新をさらに進めるとともに、日常清掃を徹底し、校内美化の意識を高める。 ⑥私費会計処理を確実にを行うため、会計処理に関する研修を計画的に実施する。 ⑦事故・不祥事の防止をめざしたより効果の高い職員研修を継続する。 ⑧これまで以上に業務精選に取組み、教職員の働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスの実現を通して教職員自らの人間性や創造性を高め、資質向上に努める。	①防災備蓄品の充実には重要だと考える。 ④SDGsの観点からも、生徒自らが学校生活の中で節約を心掛けることにより、危機意識の涵養につながるのではないか。 ⑤事故・不祥事の防止をめざしたより効果の高い職員研修に取組み、教職員の働き方改革を推進して欲しい。	①防災備蓄品の充実を図るとともに、学校と地域住民が地域の防災情報を共有し、地域の災害対策を策定していくことが重要である。 ②働き方改革への取組を不祥事防止につなげる。 ③ICTの利活用を強力に推進し、職員の負担軽減を図る必要がある。	①地域の防災力を高めるため、学校と地域との連携について、具体的に取組む。 ②私費会計処理を確実にを行うため、会計処理に関する研修を監査に向けて実施する。 ③不祥事防止会議の機能をいかし、不祥事防止に向け多面的に取組む。 ④ICTの利活用により、職員の負担軽減を図り、組織的な学校運営と校務の効率化を推進する。